

JID NEWS

社団法人 日本インテリアデザイナー協会月報

1981 6・7

第13回通常総会報告

関西支部会員の積極的な支援で、5月22日大阪ナニワの町での通常総会が実現した。総会はJIDにとって唯一、最高の意志決定機関だが、本年はここ数年と比較しても最多の出席者を得て前年度報告、本年度計画とも、審議は充実したものとなった。以下その概要報告です。

正会員の当日出席者54名（関西22、関東17、中部4、九州1）のほか、名誉、準、賛助会員3名（議決には参加できない）で、定款による委任状提出者は186名、合計240名の出席を以て総会は成立した。

会は定刻の午後1時30分開会。議長に上野忠之（関西）書記 柘植一毅（関西）、議事録署名人 安永一典（関西）、高田紀久枝（関東）の各会員を先ず選出。関西会員が多いこともあり、議事に先立ち山品事務局長より三輪理事長以下出席役員の紹介が行われた。次いで例年通り三輪理事長が挨拶に立ち、特に本年は大阪での総会実現にあたっての川崎理事を初めとして、富田、樋口、岡村の各役員、それに担当別の実行委員長、実行委員、会員諸氏のご努力を得たことに対し敬意と謝辞が述べられた。また、前年度の事業推進に寄せられた会員諸氏への感謝と、本年度事業実現にあたっての協力が、重ねて要請された。

第一号議案の昭和55年度事業報告と決算が承認され、また岡村監事による年度監査報告も同じく承認された。

目 次

● 第13回通常総会報告	1
● 1980 協会賞受賞式・祝賀会など	2
● 56・第1回理事会議事録	7
● 「芸術活動は除外」の付帯決議	10
● 九州支部報告	12
● 中部支部例会開催	13
● デザイナーインデックス（仮称）	14
— 業務委員会・整備構想段階に入る —	
● 「EXPO'85」計画が進んでいる	15
● インテリア研修セミナー（第2回）開催	16
● サンフランシスコ通信	17
● 会員の消息	21
● 事務局短信	26

次いで、事務局より会費未納者に対する提議が採択され、除名者1名（大橋滋男）、本年度期間12ヶ月の権利停止対象者9名（安藤忠雄、香西啓三、永井秀夫以上正会員、有川準一、根本恵司、小林隆志、新庄谷範員、村上豊、宮藤すみれ以上準会員）の件が承認を受け、決定した。第二号議案は昭和56新年度の計画（案）、予算（案）である。理事長、事務局長の趣旨説明の後、審議が行われた後、原案通り承認された。また本年度より野口記念基金事業特別会計が新設された。

その他報告事項としては、

- ・委員会細則の一部改正（通常委員会として新設の教育・事業・業務各委員会関係）
- ・デザインの業務及報酬基準一部改正（プロダクトデザイン関係の内容改訂が完成したもの）

が、担当の中村理事より報告され、特に報酬基準については、印刷用資料が回覧された。後日全会員に郵送されることとなった。

- ・名誉会員の推挙報告2件が山品事務局長より行われた。
大山繁三郎さん（九州支部）

清水武さん（関東支部）

ご両人とも出席されなかったので、感謝状は郵送となった。最後に泉副理事長より新事業への若干の附帯説明がなされ、引き続き閉会の言葉が述べられた。

こうして定刻の午後3時30分、本年度の通常総会はとどこおりなく全議事を終了、上野議長、柘植書記、安永、高田両署名人拍手の中に降壇して幕となった。

（総務委員会H・Y）

当日出席者（順不同）

- ・関西支部
南原七郎・富田卓司・浅田弘之・金子誠之助・秋田純孝・柏原秀夫・上野忠之・新居猛・川崎浩・植田益夫・柘植一毅・喜多俊之・樋口治・山田善唯・岡村実・安永一典・鬼田勲・式田完・児玉潤吉・袴田穰一・渡辺敏雄・平井進・浅野正道・中村隆一・宮本誠三・鈴木儀雄・藤川宏允・村尾栄・迎井夏樹・三上泰伸・秋田嘉正・常持敦
- ・関東支部
高田紀久枝・島崎信・中村圭介・山品元・川野明・狩野雄一・泉修二・三輪正弘・渡辺力・垂見健三・渡辺

優・榎田均・土屋晃一・下島資子・わたなべひろこ・長岡貞夫・山本其観代

・中部支部

松本政雄・本多正之・奥山寿一・宇賀敏夫

・九州支部

坂本康四

・その他

石川四郎（関西・名誉）、吉田誠（関西・準）

東陶機器（賛助）

（以上）

1980協会賞受賞式・祝賀会など

総会終了後、暫時の休憩の後、喜多俊之さん（関西）により「カッシーナのウィंकチェアの開発」と題して、スライドを中心としたプレゼンテーションが行われた。デザインとイタリアの風土、人、日本との比較文化論など、ユ



内田繁氏



鍵和田務氏



故 野口寿郎氏
夫人
寿賀子さん

ニークな内容であった。導入部は、柏原秀夫さん（関西）の友情出演により喜多さん自身を語ってもらうという企画も成功であった。

夕刻5時より会場を大ホールに移して、恒例の祝賀会が開かれた。金子誠之助さん（関西）を中心に、前記ヒゲの進行係柏原秀夫さんにより、会は進められた。三輪理事長挨拶、渡辺優選考委員長の協会賞選考経過報告のあと授賞に移り、

・内田繁氏 ・鍵和田務氏 ・故野口寿郎氏（野口寿賀子氏）

の3氏が重厚な賞額を、理事長から受け取られた。名誉を受けて、それぞれの方々の謝辞が述べられ参会者に感銘を与えたが、特に野口未亡人のことには涙を誘うものがあった。故人のご冥福を祈りたい。

引き続き席上次の方々へ感謝状が贈呈された。

・鈴木カメ子氏（『鈴木三 스케ッチ集』原版ご提供に
対して）
・野口寿賀子氏（「野口記念基金」設置に対すご芳志
に対して）

前者は金子会員が、後者は野口朝夫氏がそれぞれ壇上に進み、理事長から受けとられた。

祝賀会は理事長のことばのあと、来賓の大阪通産局高島部長、大阪府デザイン振興室片山参事、大阪デザインセンター新井理事長の順で、協会の事業に対し、それぞれの立場から理解と激励のあるお言葉を賜った。



旧交新交



出席の方々

長身白髪の石川四郎さん（関西・名誉）の77才とも思えぬカクシャクとした方の乾杯音頭で祝賀会に移り、アルコール、ご馳走とともにやがて全国各地から参集した会員の親睦、交流の場と変貌した。2時間後には、その夜予定されていたナイトスポット大阪北新地探訪の雰囲気ができ上がったところで、威勢のよい手ペとなった。富田・新居（関西）・中村（関東）・松本・宇賀（中部）さんらにより、会のますますの発展を祈る合同発声で華やかなフィナーレとなった。

（総務委員会H・Y）

「寄稿」総会・受賞式・祝賀会報告

5月22日、大阪府労働会館4階における総会を無事終了後、場所を7階大ホールに移して1980協会賞の受賞式と祝賀会が行なわれた。午後5時より、満場の指名によって、司会役を引受けた柏原秀夫氏のユーモアあふれた司会ぶりによって行事の次第は進められた。彼は司会は始めてとの事であったが非常にたくみで関西の味をうまく出し、初の関西における総会にふさわしいものであった。

さて、川崎浩関西支部長による開会のことば、つづいて渡辺優選考委員長による選考経過報告が行なわれた。協会賞授与は三輪正弘理事長によって行なわれた。山品事務局長がアシストした。

①（作品）“一連の家具・室内・建築のデザイン”

内田 繁氏

②（業績）“西洋家具史の研究と著作活動”

鍵和田務氏

③（特別賞）“家具業界におけるデザインプロモーション”

故野口寿郎氏

代理 野口寿賀子夫人

野口朝夫 子息

以上の方々に授与され、三輪理事長、祝辞に続き、渡辺選考委員長からそれぞれの作品についての受賞理由、エピソード等が述べられたが、野口さんの受賞内容が、デザインプロモーションとなっているが、故人が生きておられたら、例の調子で“きみ、デザインプロモーションとは何んだい”と言われるにちがいないとの話が印象に残った。続いて、受賞者の挨拶が行なわれた。鍵和田氏の地味な私の

研究への受賞は、これから同じ道を進もうと考えている若者への何よりのはげみになると述べられたが、野口夫人が述べられた故人をほうふつとさせるシンプルな挨拶と共に見事であった。

その後来賓の祝辞に移り、

① 大阪通商産業局 商工部長 高島伸亮氏

② 大阪府商工部長 高山幸重氏

代読 片山デザイン振興室長

以上の二氏がのべられた。

次に感謝状の贈呈にうつり故鈴木三一氏夫人、鈴木カメ子氏の代理で金子誠之助氏が受けられた。これは“鈴木三スケッチ集”の原稿の寄贈が当協会にあったためである。次に故野口寿郎氏夫人の寿賀子氏が野口記念基金として当協会に200万円の寄附があったことに対する感謝状が贈られた。

5時半よりそれぞれ用意されたテーブルに集まり、三輪理事長の開宴の挨拶があり、名誉会員石川四郎氏の乾杯の音頭で祝宴に入った。テーブルスピーチはまず、(財)大阪デザインセンター理事長 新井真一氏からはじまった。協会が結成されて以来初めての関西で総会が開かれたことに対する喜びの言葉がのべられ、トリエンナーレの形式で、関西でもどんどん開いてほしいとの要望があった。つづいて(社)日本建築協会副会長の福田朝生氏からは、建築とインテリアは兄弟の関係であり、これからも仲むつまじくいたしましょうとの言葉があった。次に司会者より友好団体の出席者の紹介があり、協同組合大阪デザインオフィスユニオン理事長 谷川順一氏よりお話をいただいた。ほとんどの招待者が出席されていた。ちなみに招待者の名簿をかがけておく。

・招待者

大阪通商産業局

高島商工部長

〃

原繊維振興課長補佐

大阪府デザイン振興室

片山羊一参事

〃

西浦丘祐主管

(財)大阪デザインセンター

新井真一理事長

(財)総合デザイナー協会

斉藤重孝専務理事

(社)日本建築協会

福田朝生副会長

日本室内装備設計士協会

石川四郎会長(会員)

協同組合

大阪デザインオフィスユニオン

谷川順一理事長

(社)日本インダストリアルデザイナー協会
関西事業支部

多田愛美理事

日本グラフィックデザイナー協会

全国理事 沢村徹

日本サインデザイン協会関西支部

辻本達広理事

日本ディスプレイデザイン協会
大阪事務所

副理事長 神吉定

(社)日本店舗設計家協会
大阪地区本部

山川勝彦理事

日本パッケージデザイン協会
関西事務局

理事 辻本有邦

商業施設連合会

松崎徹事務局長

次に賛助会員出席者の役職氏名の紹介があった。出席会社は次のとおりである。

東陶機器(株) (株)大丸装工事業部

(株)志野陶石大阪 住江織物(株)大阪支店

(株)日建設計 松下電工(株) (株)ユニオン

(株)川島織物 ヤマギワ(株) (株)コスガ

日本総業(株) (株)小川商店

その後、祝電披露が司会者よりあった。

さて総会出席者は55名であったが、祝賀会出席者は81名の多きにのぼり、協会始まって以来との事である。

関西地区28名、関東地区17名、中部地区3名、準会員1名、賛助会員11名、受賞者4名、招待者15名、事務局2名、計81名であった。

各テーブルでは宴たけなわとなったが、地元関西地区会員がけんめいにサービスをしていたのが目についた。それぞれのグループで二次会の相談もなされていた。

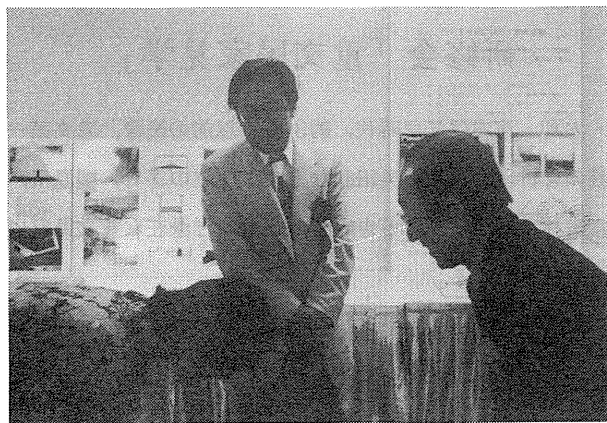
おわりに、関西風“てじめ”が関東支部 中村圭介氏、関西支部長 川崎浩氏、中部支部長 松本政雄氏と宇賀敏夫氏、加えて四国から出席の新居猛氏によってにぎにぎしく行われ、理事の富田卓司氏の閉会のことばで会を無事にとじることができた。

二次会は、北グループ、南グループに分かれたようで、関東勢が多く泊られた三井アーバンホテルのバーと、南の道頓堀、宗衛門町あたりのたべあるき飲みあるきに分かれて真夜中まで宴が続いたとのことである。

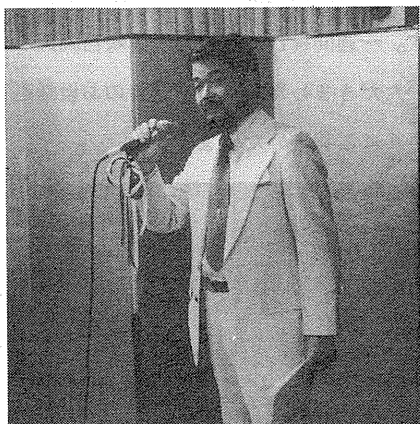
(関西支部：藤川宏允)



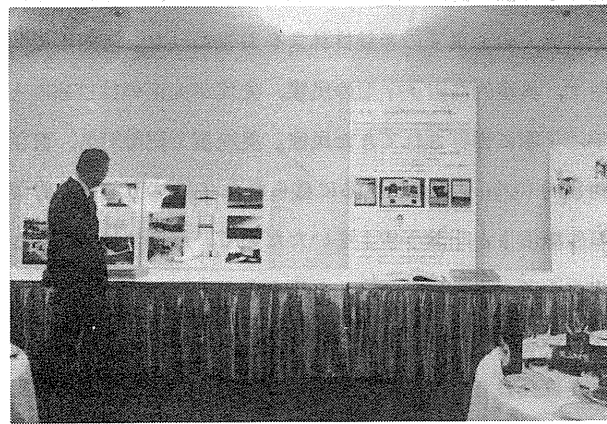
正副理事長ほか



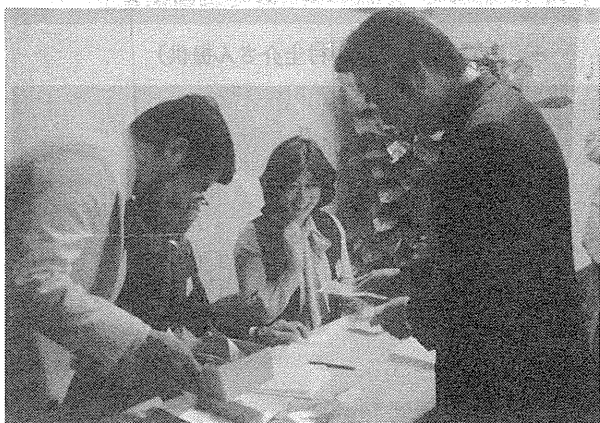
受賞者 鍵和田務氏夫妻と渡辺力会員



名司会者 柏原秀夫氏
東京の総会に
招待があった



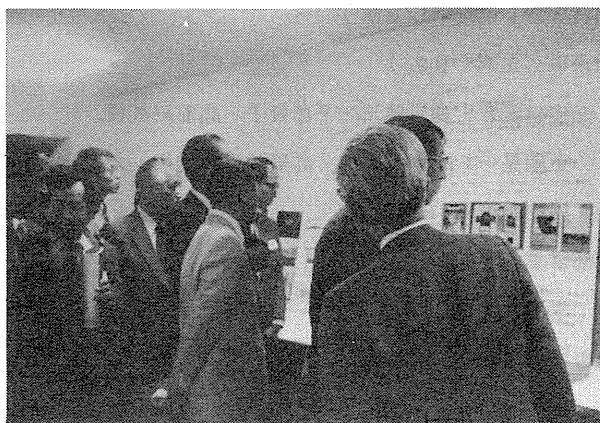
受賞者の作品パネルが会場に並べられている



出席者の受付



故 野口寿郎氏夫人及び子息へ三輪理事長より感謝状贈呈



受賞者の作品の前に集まった会員



祝宴たけなわ

研修会「重文民家見学」

大和・河内は江戸時代、約300年以前の民家、重文第一号の吉村邸をはじめ奥田邸などの大庄屋の茅葺、橿原市、富田林市に残っている寺内町の瓦葺など豪荘な重文民家にめぐまれている。

総会出席の関東、中部、九州各支部の方々に参加してもらって総会翌日に民家見学も計画して見ようと、大阪ではじめての総会準備委員会で話がもち上がり、スケジュール通り5月23日近鉄大阪線八尾駅前広場AM10:00集合、まず近くのお菓子の老舗桃林堂をお訪ねした。河内木綿問屋で、典型的な田ノ字型の民家、先代が大正のはじめに入手、丁寧に保存されてきた民家。奥座敷で総勢31名、直径約800m/m程の竹ざるに盛られた名物の五智果（野菜の砂糖漬）と「おうす」をいただいて、帰りには「もなか」のお土産、恐縮しながら、お店の前で中村さんのカメラで記念撮影。桃林堂さんありがとうございました。

支部会員有志（浅野・佐々木・富田・並川・平井・藤野・松田）の車7台に分乗、大庄屋奥田邸への途中、民芸風ドライブイン「加門」で全員うどんの会食、なごやかな雰囲気での自己紹介、適当に腹ごしらえも出来てPM1:00奥田邸着、「重要文化財奥田邸の構えは、まず供部屋・納屋付の長屋門があり、これを入ると簾目も美しい広い前庭、豊かな茅葺の大屋根が広がり、素朴なうちにいかにもドッシリした重厚な感じを与えています。敷石伝いの玄関にかかる〇に千の家も鮮やかな紺のれんといい、そこに吊りかけられた触れ太鼓といい、昔の姿そのままです…」案内書の一節通り圧倒的です。現在の当主は追手門大学経済学部教授、室内の解説は約15分すべてテープに入れてありました。一同正座して傾聴。小泉和子著「家具」記述の間口一間の蒲団戸棚、置押入れもここでは今も居室部に置かれています。上間の一隅に自然石を彫った流しも見られます。敷地約1,000坪、約170坪の建物をPM2:30迄各自ゆっくり見学、車で約20分、最後の見学先吉村邸着。「吉村邸は江戸時代の格式ある農家の典型的なものであります。大和河内地方の富裕だった農家では主屋に茅葺の急勾配の大屋根をあげ、一方に瓦葺の窯屋、他方にやはり落棟になった座敷をかまえ、主屋茅葺屋根の両端に登り高塀をあげて、その上に瓦をのせたのですが、吉村邸もその

好例であります……」 「入口を入ると広い土間、巾4間奥行4間半、内部はうす暗く、建具は皆黒光りした板戸、淡鼠色の壁、ここへ足を入れた庶民達は一種の恐怖におそわれたに相違ありません。彼等はこの土間では草履をぬいで跣足になった」とは案内書の一節。長屋門内で当主吉村堯さん（支部会員浅野正道さんの京都美大の先輩で現在生野高校美術の先生）から重文民家の維持問題など切実なご意見をうけたまわり、PM5:00今回の見学会はなごやかに終わりました。予定通りスムーズに3ヶ所も廻れたのは、車7台を出していただいた関西支部の方々のお陰です。厚く御礼申し上げます。一週間程して渡辺力・島崎信両氏から丁寧な御礼状をいただきました。この見学会のお世話をいただいた皆さんにご報告いたします。



吉村邸前で（中村圭介さん提供）



ポートピア組（秋田純孝さん提供）

●参加者（敬称略します）

関東事業支部（9名）

中村圭介・垂見健三・下島資子・高田紀久枝
土屋晃一・山本其観代・島崎 信・渡辺 力
広田長治郎

中部事業支部（1名）

本田正之

関西事業支部（14名）

川崎 浩・金子誠之助・富田卓司・新居 猛
浅野正道・岡村 実・秋田嘉正・柘植一毅

上辻謹一・藤野義弘・松田寿美男・並川拓史

平井 進・佐々木恵子

会員外（7名）

野口寿賀子・野口朝夫他5名

（関西支部：富田卓司）

河内民家の見学

— 東京より参加して —

旅行といえば、いつも京都・奈良しか行かない私にとって、このたび少し足を延ばしてくれた大阪総会に、感謝しております。

総会をはさんで、神戸博ポートピア'81、大阪中之島様式建築、大阪ナイトスポット、河内民家、奈良の寺々と、このたびも良いものを沢山見してきましたが、その中でも、河内の古い民家を見学出来たことは、私にとって大きな収穫でした。

民家で菓子舗を営んでおられる桃林堂では、建物を見学させていただいたばかりか、大きな桐の葉を透し彫りした欄間のある座敷で、きれいな野菜の砂糖漬菓子和抹茶を馳走になり、すばらしいひとときをすごさせていただきました。

奥村邸は、長屋門を入ると、簾目も美しい白砂に、「人」文字に、敷石の道がとおっている前庭が、民家とみごとに調和していました。

まるで禅寺の枯山水の庭に、向い合っているような、きびしい美しさに打たれましたが、それでいて、安堵できるあかるさがあったのは、夏のような陽ざしのせいばかりでなく、この民家のもつ、おおらかさのせいだったのでしょうか。

吉村邸は、ほとんどの民家の本にとりあげられている重要な建物だけあって、大阪、堺をひかえた河内地方の庄屋の富裕さと、格式の高さがしのばれました。

格式を重んじて作られた、書院造りの客座敷のりっぱさに、武家住宅の影響を強く感じましたが、いくつかの焚き口が一度に見渡せる馬蹄形のかまどのある土間では、太い梁がゆきかう小屋組の天井を見上げながら、以前から気にかかっていた庫裡を思いおこしました。

国宝の京都・妙法院の庫裡、二条城の台所を参観した折、

煙出しに通じる高くのびる太い木材の雄大な屋根組の野天井に目をみはり、それが民家に見られる構造と同じなのに驚かされました。

儀式的・様式的である城郭、社寺建築といえども、食事を作るという生活に密着した場である庫裡は、機能性が重視されるため、民家の機能的構造を範とした建築と見ていいのでしょうか。

見学して廻った民家は、点在していましたが、関西会員の方々が、何台も車を提供して下さい、それに分乗して移動出来ましたので、とても助かりました。又、民家の当主の方々が特別の計らいをして下さいましたことに、厚く御礼申し上げますと共に、これも会員の方々が、事前によくお願い下さっていることが察せられました。関西会員の方々の、地元での活躍ぶりや、厚い信用の程が伺われる見学会でした。本当にありがとうございました。

（関東支部：高田紀久枝）

56・第1回理事会議事録

日 時 昭和56年5月22日（金） 11:30～12:30 PM

場 所 ODC3階会議室

出席者 理 事 長 三 輪 正 弘

副理事長 泉 修 二

理 事 榎田 均、川崎 浩、坂本康四、
垂見健三、富田卓司、中村圭介、
長岡貞夫、樋口 治、松本政雄、
渡辺 優

監 事 岡村 実、渡辺 力

（委任状）木村戦太郎、白石勝彦、長 大作

（会 員）上野忠之

はじめに議事につき、三輪理事長より説明あり。泉副理事長補佐にて、報告事項より審議に入る。

I. 報告事項

① 財政状況

前回の55・第6回理事会以降、過年度会費についての納入が予想された実績に達していない。新年度の予算実行に差支えが出ている。

② 昭和56年度権利停止該当者合計10名、以下の通り。

安藤忠雄（関西）、香西啓三、永井秀夫（関東）、

以上何れも正会員、有川準一、小林武男、根本恵司、

宮藤すみれ、小林隆志（何れも関東）、新庄谷範員

（関西）、村上豊（九州）以上何れも準会員である。

理事会は総会へのリスト提出を了承した。また補足と

して、岸根歳幸（関東）、中村忠司（九州）の両正会

員、笹島裕、笹島征男（九州）、小森谷幸子（関東）

の3準会員についても5月20日現在、54・55両年度の

会費が同様未納となっているが、事務局長よりの直接

連絡に対し、本人から納入の意志表示を得ており、総

会への提出リストより除外したい旨事務局よりの要請

があった。以上につき理事会は了承した。

③ 除名該当者

5月20日時点で除名該当者とされている者合計2名、

以下の通り。

大橋滋男（関東）、山下捷治（関西）の両準会員

である。本日午後の通常総会で承認を受ければ除名と

なる。

以上につき理事会はこれを了承した。

④ 九州支部総会報告

5月16日、九州支部総会が久留米市サンライフ久留

米で開催され、その内容につき坂本理事から概要が報

告された。出席者14名。詳細については次回「J I D

NEWS」に掲載、報告の予定。また、併せて今回の

総会で名誉会員としての推挙報告がなされる九州支部

所属の大山繁三郎会員について近況報告が配布資料と

ともに加えられた。

Ⅱ 議 題

① 第13回通常総会の運営について

通常総会の関西開催は協会創立以来初めての試みで

あるので、限られた時間内内容の濃い総会運営をし

たい旨三輪理事長より発言があり、各理事に対し協力

が求められた。同時に、大阪開催に当たっての、川崎、

富田、樋口の3理事、および岡村監事の労に対し感謝

の言葉が述べられた。

続いて、川崎、樋口両理事を中心に、総会の運営と

イベント——受賞式・祝賀会までも含めて説明が加え

られた。また、出席回答状況が事務局よりあり、定足

数が確保される見通しである旨報告された。

更に、翌日に続く研修会の計画について詳細説明が、

富田理事によりなされた。各理事による説明の通り、

何れも関西支部の各委員会の精力的な計画によるもの

で、基本的にこの線で運営して行くことが了承された。

同時に出席の、上野忠之会員に対しても理事会からあ

らためて協力が要請された。

② 借入金の件

報告事項にある通り、財政状況が逼迫しており、太

陽神戸銀行青山支店より100万円の借入をして、これ

を乗り切りたい旨、審議に先立ち、事務局長より発言

があった。借入が実現した場合、印刷費関係の未払分

約205万円の中の約50%の支払いに充当する。利子は短

期利子年7%以下。借入時期は6/初、返済計画は

6/末～11/末とし5ヶ月均等返済。6ヶ月目の11/末

の最終回返済にて残額精算の予定。借入に当たっての手

続は昭和54年度の前例通りとなろう。以上理事会はこ

れを承認した。

③ 入退会関係

氏 名	推 薦 者
(正) 清水 正義	土屋 晃一、遠藤原一郎
(〃) 奥宮 守	石川 四郎、樋口 治
(〃) 塩田 一夫	渡辺 輝男、山品 元
(賛) 棚内田洋行	

退 会

(正) 水谷 文平	会 費 納 入 済
(賛) 浅野 産業	
(〃) 森 伝	会 費 納 入 済

以上の件につき資料に基き審議され、いずれも承認さ

れた。次回は7月下旬の予定

(以 上)

新・検査デザイン課長に落田実氏

J I Dの主務官庁である通産省検査デザイン課長の6月

1日付異動が発令された。新しい課長は落田実さんで、和

歌山県出身である。通産省内オフィスモデル化推進計画も二

年目を迎えている現在、新課長に期待したいところは大き

い。ぜひインテリアデザインに強い関心をお願いしたい。

尚、名課長の誉高かった前任の久礼彦治氏は四国通産局商

工部長として高松市に赴任された。ご発展を祈ります。

『日本のインテリアデザイン』刊行

7月3日、1年有余をかけて出版特別委員会（光藤俊夫委員長）が進めていた標題の『日本のインテリアデザイン』が刊行されました。すでに会員へは事務局から第1回の案内が発送されていますが、早くも申込みされた方が出て来ています。

発刊と同時に協会にも在庫を持つようになりましたので、内容を更に詳しく見たい方は事務局へお立ち寄り下さい。尚、会員のお口添えて申込みされる非会員の方々も在庫により会員同様の価格で購入できますので、勤務先をはじめ関係筋、仕事仲間の方々にもお勧め下さい。

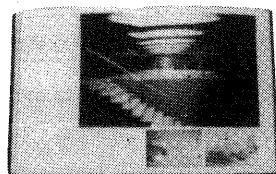
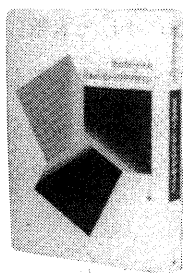
以下が特別頒布価格です。

『日本のインテリアデザイン』

定価 14,800円（送料別）を

会員特別価格 13,300円（送料500円共）

- ◎ 行き違いを避ける為、できるだけ同封ハガキをご利用下さい。



新 出版事情始末記

今ここに、日本のインテリアデザインを出版。委員一同ホッと胸をなでおろす。

思えば、長い道のりであったことに間違いはない。委員会は55年2月から始まり56年の終盤に入ってから毎週1回といわず2回もあった顔合せ、打合せ。本年6月5日第35回目の委員会を。正に、委員長にとっては大車輪の週もあったし、会議直前での原稿完成は再々であった。お疲れさま。

さて、順を追ってページをめくると……。例のサブテーマをつくる作業から始まる。『くらし・もの・ひと』『道

具と生活』『光と影』『光・空間・影』『光のくらし』などなど、インテリアにかかわりをもつテーマへと委員一同知恵をしぼる。……きめた。

さて、『作品はどうするか。』『はたして、集まるのか。』事前に会員へのアンケートはしたもののこれだけでは足りん。はてさて思案顔。『会員以外から公募しよう。』『どんな方法がよいのか。』『どのように……したらなどなど。』『どうでしょう。○○賞を設けたら、そうすれば集まりがよいのでは。例えば、剣持勇賞などは……』との声。

皆、大いに賛同。『勿論、選考は協会の委員会の方で』と。時がたつ。問題あり、協会賞との関係をどうするか。混乱しないか。出版はあくまでも出版独自で考えてほしいと。

致し方なく、この話は沙汰やみ。

一方、募集要項の作成。会員に周知徹底する上からも、『多くの会員の参加を願おう。』との主旨。『推せん者グループ、選出者グループをつくろう。』夢多く、理想は高く、各委員の胸は高鳴る。

委員会は出版者（六耀社）の会議室を使用し、ある時はNさんからのおいしい長野の地酒が。又ある時は、Mさんからのナポレオン1本がテーブル上に、そして話題は深更にまで及ぶ。そして、時々のダルマの1本が委員への活力をよみがえらせる。

杯を片手に、まだ見ぬ恋人を語るが如く、こんな体裁にして、こんな内容でなどと。

雨降る新宿の街頭を、そぞろ家路に急いだ日も何回か。『まだ、終車に間に合うかな』と。

ほろ酔いの足を急がす。

『予想をこえる作品の洪水だね。』そして、提出された作品内容の確実さ。『とくに、非会員の熱気がつたわってくるようだね。』多くの応募作品をテーブルに並べ、『よい本をつくろう』とする情熱とともに選定は進む。

掲載作品の決定。ネガ依頼、適確な資料の送付願やら。版權に対する関係者の声は、委員宅の電話を急襲する。曰く、いろいろな声が満ち満ちて、委員会の席上をうるおす。『結論は、とどのつまりこの線でゆくしかない。原則としてこの線で、……と。』

初校。文面もチェックもほどほどに、出来上がった校正刷を手感激のひと声。

「出来たァ。出来たか、」
きっちりしたレイアウトに、きちんと組込まれた文面が、いかにも、内容の豊かさを彷彿させてくれている。

「エッセイが細かく見にくいかな。」「やっぱり、この写真は大きくなったか。」「アレッ、この写真こっちの方がよくうつっているぞ。」「ヨシ、これでいけそうだ。」と。

全員で文字稿を順ぐりにチェック。

「あれ、デザイナー名はこれでいいのかな。」「どれどれ、ちょっとおかしいな。」「おーい、モト原をもってきて下さい。」「会話の一コマ。」

まもなく、素敵なウイスキーのびんが並ぶ。

さて、おつまみも出たところで、「皆さん、乾杯、」いよいよ、終点も近くなりました。御苦労様でした。「いやいや、九十九里をもって中ばとするとか。」「ところで、このびんは。」「ハイ、シンガポールからの差し入れです。」

なごやかな雰囲気の中に、きびしさを忘れずに会はずむ。

もっとも多忙であるMさんの心づくしは、委員の気持をより一層はげましていた。終りに、出版に御協力いただいた会員他の皆様に厚く御礼申し上げます。

(文責：尾上)

「芸術活動は除外」の付帯決議

参議院地行委議事録から

一 総務委員長 中村 圭介 一

先にお知らせしたデザイナーに対する個人事業税新設の問題については、3月26日の参議院地方行政委員会(委員長・亀長友義)で審議され、共産党・神谷信之助委員、社会党・佐藤三吾委員などから反対質問がありましたが、賛成多数で可決され、昭和56年の事業所得をもとに、昭和57年度から実施されることになりました。質疑の内容は次のとおりですが、「芸術活動によるものは含まない」との全会一致の付帯決議がつけました。

参議院地方行政委員会会議録6号抜すい佐藤三吾君(社会党)「デザイン業の範囲というものは一体政令でどういうふうにお決めになるのか。」

政府委員(石原信雄君・自治省税務局長)「デザイン業につきましては、継続して対価の取得を目的として、デザイ

ン、すなわち物品のデザイン、装飾に係るデザインまたは庭園もしくはこれに類するものに係るデザイン、こういったものの考案及び図上における設計または表現を行う事業、というふうに規定したい、このように考えております。」

佐藤三吾君「税務局長の答弁の中で、デザイン業の内容について、政令基準の方向はいただきましたが、それに基づく見込額というのは大体どの程度予想しておるのですか。」

政府委員(石原信雄君)「デザイン業の追加による収入額は2億円でございます。」

神谷信之助君(共産党)「デザイン業約2,500人中1,100人が対象になるとのことですが、いままで課税対象になってなかったのを今度課税対象にするということにしたのはどういう理由ですか。」

政府委員(石原信雄君)「個人事業税につきましては、御案内のように、法人事業税と異なりまして、具体的に課税する事業を法律で限定列挙しております。そこで、世の中が変わりますと、いままで考えられなかったような事業もふえてきて、結構それがかなりの収益を上げているという事実が出てまいりまして、そういったものに課税をしないということは、現に課税されている業種との均衡の問題もあります。それからまた、地方財源の少しでも欲しい現状におきましては、課税できるものがあれば少しでも探して課税していきたいという意味で、地方税源の強化充実という意味からも対象を広げたいと、こういうことで今回取り上げたわけでございます。」

神谷信之助君「デザイン業というのは、それぞれ主観で自分の仕事の業種をいろんな言い方をなさっている方が多いわけです。」

これはある事例ですけれども、所得税の申告に設計監業業ということで業種を書いて出して、それで建築設計の同類だということで課税をされて、事業税がかかってきた。それに対して、デザイン業だということで不服申し立てをして、結局事業税の課税対象ではなくなった例もあります。

一つは、なぜ第3種に入れたのかという点ですね。第3種を見ますと、弁護士とかお医者さんとか薬剤士とかあんまさんとか、いろいろ国家試験とか行政試験、そういう一定の資格で、だれもができる仕事ではない、なれない、そういう業種ですね。一つちょっと変わっているのは諸芸師匠業というのがありますが、これも家元の免許やかさそう

ということもあるから並んでいるのかと私は思ったりしているんですが、そういう点から言うと、今度入るコンサルタント業とかデザイン業というのはちょっと異分子のような感じがするんですが、この辺はどうなんですか。

政府委員（石原信雄君） 確かに現在の第3種事業として法定されているものの多くは、その資格について法律上の要件が必要であるというようなものが多いのですが、ただ、ただいまお話がありましたように、諸芸師匠業などについては、家元の免許はありますけれども、法律上の資格というようなことではなくて、事実上の一定の技能がある人がこの事業を行っているということで課税されております。それから、そのほか印刷製版業なども特定の資格は要していません。

そこで今回、資格を要するという要件はありませんけれども、事業の内容実態が現在の第3種事業、いわゆる自由業的なものとして類似している、それから現実にはこれらの事業でかなり収益を上げているものがあり、担税力もあると、こういったことで第3種事業にこれを加えたわけでございます。

神谷信之助君 その範囲は政令で定めることになっておりますが、大体どういう内容を考えていますか。

政府委員（石原信雄君） 政令で書こうとしておりますことを申し上げますと、まずデザイン業でございますが、継続して対価の取得を目的としてデザイン、すなわち物品のデザイン、装飾に係るデザイン、または庭園もしくはこれに類するものに係るデザイン、こういったものの考案及び図上における設計または表現を行う事業、このように政令で定めたいと考えております。デザインについてはそんなふうに考えております。

神谷信之助君 たとえば京都で言いますと西陣織とかそれから友禅、手がき友禅もありますし、それから清水焼やあるでしょう。あれの図案というのは、いろんな人がおられて、おれは下絵の職人やと言うてる人もあれば、おれは芸術家やと言うている人もあるし、おれはデザイナーやと言うている人もあるし、おれは商売でやっているのやと言う人もあってね、その人の主観的判断でものすごく違うわけですね。こういう業種というか、そういう人たちもこのような範疇に入るわけですか。

政府委員（石原信雄君） 一般論といたしまして、事業税

は芸術には課税しないという考え方に貫かれておりますが、いまの具体的なお話として、西陣なら西陣織のデザインを行っている人が芸術家なのか事業家なのかということですが、私どもの判断基準としては、まず、対価を得る目的で行っているかどうか。要するに、対価を得るということの一つの目的としてそのデザイン、デザインというか、図案を売り出しているとか、そういったものを行っているかどうか。それからそれを反復し、継続して行っているかどうか。それからそのために一定の事業所を構えて行っているかどうか。こういった点で判断していくことになるかと思えます。

なお、具体的には、いずれにいたしましてもこれらの課税標準額は国税の所得税の方で事業所得として申告されたものの中から拾っていくわけですから、そこで一たんふりにかかるとは思いますが、その中で、いま申し上げた政令で書こうとしておりますような要件を備えたものにとらえていきたいと、このように考えております。

神谷信之助君 明らかなものはいいんですよ。現場で一番困るのは、新しく出てきますと個人事業税が賦課されるわけでしょう。そうすると、これは新しいものですからいろいろ文句が出てくる。その芸術家なのかどうかというきわどいところが現場でも大変な問題になってくるということになりますね。芸術家でも、何も対価を得ない目的であれ絵をかいったりしてないでしょう。やっぱり食わないかぬのやからね。売れるか売れないかは別にしても、売ることややっぱり目標の少なくとも一つには入っているだろうと思うんです。継続してというのも、毎日、1日1枚かく人もあれば1年に1枚しかかかぬ人もあるけれども、1年に1枚でも継続は継続なんでね、継続して画家として絵をかかはるんですよ。だからこの辺もむずかしいですし、事業所を持っているかどうかというのも、自分の家でそういうことをやっているだけの人もあれば、看板出している人もある。しかし、その差を外形だけで判断をしにくい問題も出てくる、実際上は。

だからこの辺は、実際には賦課徴収する場合に非常にいろいろトラブルの起こりやすい問題なんでね。先ほど言われたように芸術には課税をしない、だから芸術活動にわたるようなことのないような点で、しかも現場でそういうトラブルが起こらないように指導の点——これは非常に種類が

多いですからね、そういう絵かきさんの場合もあれば、それから本当にクラフトデザイナーやとか商業デザイナー、工業デザイナー、ファッションデザイナーといろいろありますから、だからそれがどこまで芸術活動に入るのか入らないのかというのは非常に私は線引きがむずかしいだろうというように思うので、現場で混乱をしないようにそういう点はひとつはしっかりと処理ができるように指導してもらいたいということを要請しておきたいと思いますが、よろしいでしょうか。

政府委員（石原信雄君） このデザイン業の具体的な範囲につきましては、私どもの段階で考え得る限り正確に政令で範囲を規定したいと思いますが、それでもただいまお話がありました芸術と事業の境目というのはかなり微妙なことになると思います。そこで、これらにつきましては、税法の施行に当たりまして、施行上注意を要する事項についてはかなり事細かに通達を出すことにしておりますから、第一線の職員の方々の御意見なども聞きながら、混乱の生じないように適切な対応をしてみたいと考えております。

（注）以上は『商業施設』1981年6月号（商施連機関誌）NEWS欄より先方の好意と著者の了解を得て転載しました。（事務局）

九州支部報告

<その1>

九州支部では去る5月16日、久留米市諏訪野の勤労婦人センターサンライフ久留米で、支部総会と懇親会を開催した。出席は14名で成功でした。以下その概要です。

① 昭和55年度事業報告および会計報告

3/2……………支部総会（坂本邸にて）出席9名。

6/27……………IFI会議報告会、川上玲子理事のIFI会議出席状況の報告会（マルベニにて）出席4名。

10/25……………金光教福岡高宮教会見学会『六角鬼丈氏設計』出席13名

11/1……………永井敬二氏 コレクション見学会（永井邸にて）8名出席

12/14……………住宅見学会『菊竹清訓氏設計』出席8名

12/14……………懇親会（菊竹清輝邸にて）出席8名

② 協 議

1) 56年度九州支部事業計画について

- 5月16日（土）九州事業支部総会……久留米地区にて
- 事業計画案

- 福岡県新庁舎見学会『設計監理・黒川紀章氏』（現在交渉中）

- 東陶本社の見学会と講習会（北九州市）

- 支部会員を中心に地域のインテリアデザイン振興と会員相互の研鑽を目的とした講演会の計画。

- 永井敬二氏の作品展と研修会の実施。

- 講演会・研修会実施のための準備委員会の発足の件

- 支部会員・柴田龍介氏が9/15～20日福岡市美術館にて個展『イスを主としたオブジェ的なもの』の推せん。の件。

- 講演会・研修会後は懇親会を実施する。

③ 支部会員の大山繁三郎氏（元九州産業大学芸術学部教授）と樋口益次郎氏（長崎船舶装備KK）の両会員には永い間支部のために色々と御尽力を頂いてまいりましたが、此の度、大山先生には、日本インテリアデザイナー協会の名誉会員に推挙され、第13回通常総会5/22で報告されました。九州事業支部としても、今後共先生のお力添えを頂くことが出来ることを喜びたいと思います。樋口さんには社を退社されたとの事で当会も退会されました。今後の御活躍と御健康を祈念申し上げます。

尚両氏にはささやかなものですが、記念品を送り永い間の御苦勞を感謝いたします。

④ そ の 他

- 大川木工指導所の箴島氏より、デザイン情報資料の提供がありました。支部会員の皆様へ配布したいと考えておりましたが、資料の大部分が縮少印刷のため印刷不可能で残念に思っております。

- 会への提案、御意見等が御座居ましたら事務局まで御連絡頂ければ幸いです。

（注）以上、九州支部報告より。一部省略しました。

<その2>

① 見学・講習会

梅雨入りでうっとうしい毎日が続きます。

会員の皆様には、毎日御多忙のことと拝察いたします。

5月16日の支部総会には14名の参加があり、報告と協議を行ないました。今年度の事業計画など決定して頂きました。その中で、九州支部として見学会や講演会だけでなく、デザイナー集団としてなんらかの活動をすべきではないかという御意見がありました。

検討の結果57年度には九州事業支部としての作品展が開催出来るよう本年度から計画するようになりました。役員会で今後の方針等検討し、会員の皆様へ連絡し御協力を御願ひすることになると思います。

懇親会はわき合いあいのうちに話しがはずみ9時過ぎに散会しました。

さて、前期の見学・講習会として、福岡県庁舎と東陶本社を計画しておりましたが、県庁舎は先方の話しでは9月ごろにしてほしいとの事です。東陶本社は、北九州の堤さんのご協力のもとに、下記のような日程で見学と講習会をして頂けることになりました。

・場 所 東陶機器KK本社工場・ショールーム

北九州市小倉北区中島2

・日 時 1981年7月10日(金曜日) 14時~17時

② 連 絡

1. 日本インテリアデザイナー協会総会が5月22日、今年度は大阪が当番で開催されました。

九州支部からは坂本支部長が参加されました。大変盛況のうちに終了することが出来たとの事です。見学会の折にでもご報告して頂けるものと思います。

2. 永年九州事業支部のためにご尽力下さいました、樋口様、大山様へ総会出席者および支部会費より補助して、型ちばかりですが記念品を日田の中川氏にお世話頂き贈って頂きました。

両氏よりご丁寧なお礼の手紙を頂いております。皆様に呉もよろしくとのことです。お知らせします。

3. 支部会員の柴田氏の個展、総会で推せんすることになりましたが、ご本人より案内状が出来ましたので、会員の皆様へよろしくとのことです。

企画としてもユニークな催しであり、展覧会のご成功を祈りたいと思います。会員の皆様ご声援の程よろしく願ひします。

4. 支部へのご意見をお寄せ下さい。

(九州支部：溝口 新)

註) 九州支部事務局報を一部割愛して転載しました。事務局は現在溝口新会員のご尽力で運営されております。

中部支部例会開催

日 時：昭和56年6月3日(月) 5:00~8:00 PM

場 所：名古屋、千種、弥生会館

出 席：松本政雄、宇賀敏夫、林寅正、岡嶋敏弘、

池田高明、田村悠、加藤博之、佐藤孝夫、

堀内啓二

・昭和56年度の総会・研修会の報告・松本政雄氏

・新入会員・佐藤孝夫さんの自己紹介

・55年度の中部支部の事業報告・宇賀敏夫氏

・56年度の事業運営計画案の審議

1) 家具展 ・昭和56年5月12日(火) 愛家連

2) 総会報告会 ・6月15日(月) 弥生会館

3) 講演会 ・8月1日(出)又は8日(出) 開発志向

4) 見学会 ・9月 伊奈製陶(株)

5) 研究会 ・10月 会員の自己啓発、懇親

6) 懇談会 ・11月 賛助会員と会員の交流

7) 研修会 ・1月 デザイン講習会

8) 懇談会 ・9月 J I D A、NDC交流

尚、J I D A、NDCとJ I D中部支部会員との交流、推進方法を検討、9月中旬頃合同の懇親会をまず開くことから始めることや、中部支部会員の参加する意識を昂揚する方策としての広報のあり方や、メンバーズクラブへの加入など、席を改め、生ビールを飲みながら親交を深めた。

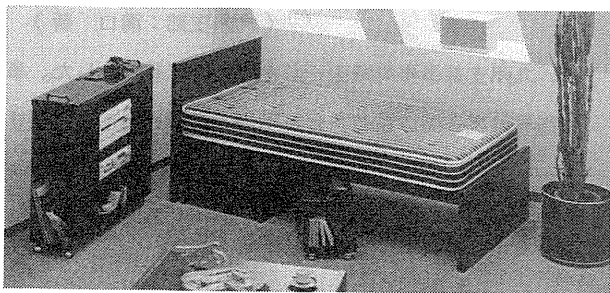
(中部支部：堀内啓二)

愛知県優良家具展に協力

— 中 部 支 部 —

中部支部では、去る5月、名古屋市国際展示場で開催された第23回愛知県優良家具展示会と併催のコンクールに協力、審査員として松本政雄(委員長)、林英光、堀内啓二を派遣した。

恒例となったJ I D理事賞(トロフィー)は今回、以下の作品に贈られた。



アイシン精機株式会社
商品名・ベット・クロイスター

写真に見るように、ヤングのライフステージを考慮した意欲的なデザインが評価された。

尚、会場の名古屋市国際展示場は延面積14.913㎡という、東洋一のスケールをもつ大展示施設であります。

(中部支部：堀内啓二)

デザイナーインデックス(仮称)

— 業務委員会・整備構想段階に入る —

業務委員会は6月18日初会合を開き、前年度より検討されていた業務特別委員会の中間答申を踏まえて、協会のファイリングシステムの整備と公開のための方法がどのようなものであればよいのか、また費用の裏付けをどのように確保できるのであろうか、会員相互のアプローチを含めて討議された。

このファイリングシステムの整備と公開の目的は、デザイナーインデックス(仮称)の資料が新しい作品の写真・設計図書によってデザイナーの活動がフォローされており、また企業の新製品・施工例がもりこまれ広くユーザーが閲覧および副本ゼロックスの入手ができ、かつデザイナーならびに企業への照会が容易に可能となるような比較的新しい情報ストックとして活用できることを目的としている。

前記の中間答申第3案は理事会を経て総会の承認を得たので、継続事項として今後広く会員の意見を取り入れ討議できるように準備を進めていきたい。以下、第3案の内容を記します。

「協会が受託する業務は現行規定における受託業務と、協会が主催(協賛事業を含む)する事業の業務に限定することを基本とする。

協会が関連する民間企業・業界と積極的なつながりを開拓・維持するためには、協会の実体を正確に伝達し理解

させる情報(資料)を整備し、協会(会員)と関連業界双方ともに有効かつ有益な媒体にする。

情報(資料)は会員の個別に作品・業績等を記録した「ファイリングシステム」を作成する。これを公開し、関連業界側の要求に対して協会(会員)が如何に対応が可能であるかを理解させる。

この情報(資料)公開の運用には協会(事務局)は事務的側面のみに限定し、関連企業と会員とのコンタクトは双方直接に行い業務の内容等には直接介入しない。

④「原文通り」

このように、細則(3)業務の受託・斡旋に関する細則の改定が考えられており、これらをもとに「会員のメリット論」を含めて方針の設定、計画を進めている。

討議の中で協会予算を踏まえて以下のような情報の流し方について意見がありました。

1. インテリアデザインへの掲載。
 2. アンケート調査を行う。
 3. 公聴会を開催する。
 4. 雑誌などを通じてデザイナーの活用度・インデックスの必要性など集計する。
 5. 他団体と協会の協力で可能性を探る。……などです。
- また、費用面からどのようなことが考えられるかについては、

1. 資料は応募者に限って整備する。
2. 文書式のインデックスを考える。
3. 名簿にインデックスの内容をもりこむ。
4. 新入会員の入会時に登録料を受け整備していく。
5. 正会員・賛助会員より費用負担を願って全員登録を計る。……などです。

保管場所・管理については、本部を固めてから支部のファイリングを検討して行くこととし、正本、副本の配備も合わせて他団体等へ配布が考えられるが、今後の検討点としていきたい。

資料作成の内容については前年度より検討されており、書式の整備(モード化)とファイリング(システム化)インデックスコードNoの付け方など原案を継続して討議する。

また、基本的な資料作成費、管理保管費、印刷、通信費、購入品費などの予算的な面で企画を要めなければならないので、会員諸氏のご協力とご支援を賜りたい。

今回は7月13日(月)午後6時より8時の予定で業務委員会を開催の予定でメンバーは下記の通りです。ご意見などありましたらご連絡いただければ幸いです。また、細部の作業段階では有志の参加をお願いすることもありますので合わせてご協力下さい。

(文責 業務委員長：諸富幸成)

渉外委員会小報告二題

① 渉外委員会にJIDAより座談会出席の招へいがあったので、長岡貞夫会員にその出席を依頼した。以下、小報告です。

去る6月8日、JIDAの機関誌である「インダストリアルデザイン」誌の企画により、『デザインの現在』(仮題)と題する座談会が開催された。

この座談会では、JIDの他、柴田献一(JIDA)、佐野寛(JAGDA)、竹鶴寿男(JPDA)、三浦勇(JCD)、の各氏が出席し、デザインをめぐる種々の問題や今後の予測、各団体の特徴や相互交流の可能性などについて活発な議論がとり交わされた。尚、司会はJIDAの広報部長井ノ口諠氏であった。

詳細については、7月発行予定の「インダストリアルデザイン」112号に掲載される予定です。

② 去る6月11日、省内デザイン専門化委員会例会が、落田実新検査デザイン課長の出席を得て開かれた。JIDからの出席は木村、藤村、田辺、山田(伊)の各委員が出席し、新しい年度の課題につき討議を重ねた。委員会も二年目に入り、より具体化に向けて始動している。

(渉外委：事務局)

第20回京都デザイン展作品募集

京都市と京都デザイン協会の主催になる全国公募展の作品募集です。今回の各部門共通テーマは「ピープル」です。以下概略。

- 第4部門 クラフト、インテリア、ディスプレイ、インダストリアル、建築の各デザイン
- 期 日 作品搬入 9月26日(土)
日図デザイン博物館

- 賞 グランプリ(1点、副賞50万円とトロフィー)
- 金 賞 (1点、副賞20万円とトロフィー)
- 銀 賞 (8点、トロフィー)
- 銅 賞 (12点、トロフィー)

本展に関する問合せは、直接下記へ。

- 京都デザイン協会

京都市中京区河原町御池東南角 京信ビル4F

電話 075-255-0086 または

- 京都市経済局伝統産業課染織係

京都市中京区河原町御池

電話 075-222-3338

「EXPO'85」計画が進んでいる

— (国際科学技術博覧会) —

21世紀へあと15年をのこす1985年、21世紀に向かう人類の限りない飛翔を求め、人類のあるべき姿を探りながら、科学技術について、新しいイメージを探求するための「EXPO'85」が、筑波学園都市において開催される。

そのテーマは

「人間・居住・環境と科学技術」

(Dwellings and Surroundings — Science and Technology for Man at Home)

であって、科学技術を生活面からとらえて、人間がのびのびと、よりゆたかに生きてゆくための環境をみつめようとするもので、世界の英知を筑波に結集しようというものである。

その中で、21世紀を担わなければならない若い世代が希望に満ちた将来への展望をもつことと、世界各国・各民族が相互に理解と認識の絆をもって結ばれ、より高い次元の協調・協力関係が生まれてくることが期待されている。

テーマにうたわれている“居住”と“環境”は、人間の存在基盤をなすものであるが、未来ある多くの若き世代によって、科学技術との関わりあい、より調和のある居住形態が求められ、さらには、人間にとってより快適な環境の創造が、大きくは宇宙・海洋・沙漠・地中・極地などの

極限的な環境における人間の住み方の研究にまで進められることが期待されている。

すでに発表されたこの計画の基本構想原案では、この博覧会の通称は、「科学万博 — つくば'85」(英語標記「TSUKUBA EXPO'85」)である。

「EXPO'85」開催の要領は次のとおりです。

- (1) テーマ 「Dwellings and Surroundings
— Science and Technology for
man at home」

日本語仮題

「居住と環境 — くらしと科学技術」

- (2) 開催時期 昭和60年 春～秋(180日間)

- (3) 開催場所 茨城県筑波学園都市

- (4) 規 模 イ. 予測入場者数 2,000万人

ロ. 会場面積 100ヘクタール

(駐車場等場外施設を含む)

- (5) 会場構成 テーマに基づく会場全体の統一的構成に
重点をおいて政府館, テーマ館, 外国館,
民間館を配置すると共に, 公園, 催事場,
ホール等を設ける。

- (6) 会場建設等直接経費 750億円程度

この博覧会の開催によって, 21世紀を創造する科学技術
のビジョンを内外の人々に示し科学技術に対する理解を深
めると共に, 特に若き世代に未来の科学技術を正しく理解
させ, 優秀な人材を科学技術の分野に誘引することを大き
な目途としている。

事務局は

財団法人 国際科学技術博覧会協会

〒100 東京都千代田区内幸町2丁目2番2号

富国生命ビル23F

電話 03(508)1985(代表)

(名誉会員: 工藤広忠)

国井喜太郎産業工芸賞きまる

(財)工芸財団(豊口克平理事長)では, 第8回(昭和55年)
国井喜太郎産業工芸賞(今回より新名称となった)を次の
お二人に決定した。

- 小林工業株式会社 社長 小 林 正 一(新潟)

「産業工芸試験所デザインによる洋食器の生産と普及」

- 渡 辺 篤 治(三重)

「鉄のデザイン開発による地場産業のデザイン意識の
高揚」

インテリア研修セミナー(第2回)開催

去る6月22日～24日, 昨年10月に次ぐ第2回の研修セ
ミナーが東京で開かれた。今回は, “新たな事業展開を準備
されている方々へ”というサブテーマで, 主に住宅・イン
テリア・設備・流通分野を対象に実施した。今回は, 佐戸
川清・西沢圭三, 黒田秀雄の3会員を含む8講師に出講を
お願いした。参加者は17社20名であった。以下その研修内
容の概要です。

- 第1日 ① 耐久消費財におけるく買い替え・買い増し>

需要の実態とニーズ分析

上村 忠氏(㈱東京放送 調査副部長)

- ② インテリア企業におけるデザインマネー
ジメントのあり方

佐戸川清氏(佐戸川デザイン事務所長)

- 第2日 ③ ファブリックスにおけるデザイン傾向と商
品潮流

尾沢卓男氏(㈱川島織物 調査役)

- ④ インテリアにおける家具の現状とユーザー
への対応

西沢圭三氏(家具デザイナー)

- ⑤ 住宅設備機器におけるデザイン傾向と商品
潮流

黒田秀雄氏(㈱黒田秀雄キッチンシステム
研究所長 JID会員)

- ⑥ ユーザーの高級化志向にともなう販売戦略
課題

山本洋吉氏(㈱丸井 家庭用品部長)

- ⑦ インテリア専門店における顧客管理とSP
活動

安達昌人氏(販売促進コンサルタント)

(文責: H・Y)

デンマーク・デザイン・セミナー開催

デンマーク大使館ではJ I Dも加盟する日本デザイン団体協議会はかの後援で、去る4月22日、東京でデザイン・セミナーを開催した。わが国でも周知の、デンマーク・デザインについて次の講師を迎え討論会形式で行った。スライ드의解説（GKインダストリアルデザイン研究所 藤本清春）もあり、会場にはJ I D会員の顔も多数見えた。尚、セミナーは午前・午後の二部にわたり、特に午前の部には折から来日中のデンマーク王室ヘンリック殿下のご臨席があった。

講師：竹山 実（建築家）

J・ニールセン（建築家）

五代利矢子（評論家）

H・クリステンセン（マイスター）

質疑応答の司会：木村一男（J I D A事務局長）

H・J・ロズン

（デンマーク外務省商務参事官）

午後の部はセミナー終了後レセプションがあり、会場に展示されたイスとポスターを中心とするデンマーク・デザインのエッセンスを鑑賞した。（文中の敬称略）

新名誉会員 大山繁三郎さんのこと

大山さん（元九州産業大学芸術学部教授）が、日本インテリアデザイナー協会名誉会員に推挙されるにあたり、先生の九州産業大学芸術学部御退職時に於ける研究ならびに、教育の御功績について、九州支部より御報告します。

昭和55年2月21日 於、福岡天神ガーデンパレス

九州産業大学芸術学部主催により、大山繁三郎教授御退職記念パーティーを開催

昭和55年2月19～2月24日 於、KBCギャラリー

大山繁三郎家具デザイン小品展

昭和55年2月24日 於、福岡天神ガーデンパレス

大山先生御退職記念OBパーティー

全国よりデザイン学科インテリアコース卒業生100

名余参加

昭和55年3月27日～28日 於、大川産業会館

大山繁三郎家具作品展

主催………大川家具工業会

昭和55年12月

九州産業大学芸術学部資料委員会にて、大山元教授作品（サイドボード、テーブル、イス3脚）を買い上げ決定、永久保存。

福岡県八女郡星野民芸にて製作56年3月搬入）

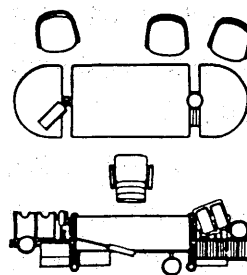
（九州支部：有志）

大橋滋男氏（準会員）を除名

第13回通常総会（5月22日・於大阪）で、定款と会員規定に照して、準会員大橋滋男氏の除名が決定した。昭和39年に準会員として入会以来の長期会員がこのような結果になったのは惜しいことである。未納会費の点については、J I D代理人としてお願いした佐藤法律事務所に今後は引継がれ、法的に処理されることとなる。

サンフランシスコ通信

会員の皆様、お元気ですか。昨年11月、新入会の清水忠男です。はるばる東京のJ I D本部からここ サンフランシスコへお送りいただいている資料、機関誌など毎回楽しく拝見させていただいております。



さて、私がBruce Burdickのもとで担当しておりますHerman Miller社のためのエグゼクティブ用デスクシステムは昨秋、一部が米国と西ドイツとで発表されましたが、その後、各国の雑誌などにも紹介され始めました。（“Industrial Design”誌（U.S.A）1981年1/2月号。“Japan Interior Design”誌1981年4月号など）何かの折りに目を通していただければ幸いです。引き続き追加デザインやマニュアル作りなど手がけておりますが、仕事の比重は次第に一般オフィ

ス用システム家具の開発の方に移り始めています。

5月中旬から2週間ほど5年ぶりに一時帰国します。仕事の打合せや大学での講義などに追われるタイトなスケジュールで、久々の日本もゆっくり味わえそうにありませんが、同行する米人デザイナーカップル、Michael McCoy 夫妻の講演が5月22日に日本デザイン団体協議会の後援で行われる折りに、私も出席する予定ですので、なつかしい多くの顔ぶれにお目にかかれるのではないかと楽しみにしております。

(在サンフランシスコ：清水忠男)

後記：5月22日はあいにく大阪での通常総会と重なり、清水会員の今回の希望は惜しくも実現されなかった。短い滞在日数でしたので、事務局の山品も会うことができませんでした。上記の便りには、雑誌のコピーが同封されました。掲載できず残念です。イラストはそのほんの一部です。

(H・Y記)

私の近況報告

先月号で掲載の私の消息について、総務委員の方からご連絡をいただきましたので、一筆啓上いたします。

旧聞に属しますが、私と仲間5人で、4月上旬に銀座“ゑり円”において開催した現代の茶の間“ながら空間”展は、6日間で1,068人の入場者がありました。今更乍ら住宅に不満や疑問を抱いている人の多いのに驚くと共に、責任を感じています。

次に、私今年1月より、通産省生活産業局インテリア人材育成専門委員をさせていただいております。5人の委員の中、女性は私だけなので少々心細いです。

会員の徳永さんにより西武都市開発に関係させていただいていますが、西友小手指のオープンからも手を染めています。西武なみにしたいという先方の意気込みに打たれ、私もこれからの大型店は地域社会との結びつきを重視する一方、デザイナーもまた消費者であり、かつ奉仕者、一粒の麦的な自覚がないと社会から浮き上ると考えています。“ながら空間”の延長線上の仕事にしたいと思っていますので、今後ともよろしくお願いいたします。

(関東支部：嶋佐知子)

商施連で5周年記念行事を計画

J I Dも団体会員として加入している(株)商業施設技術団体連合会では、かねてより社団法人設立5周年を記念しての全国大会を計画中であったが、このほどその要領が固まった。以下その概要です。(一部予定)

●期日：56.9.1

●会場：三越文化センターホール及三越本店特別食堂

●構成：第一部 式典

基調講演

清家 清

第二部

特別講演

泉 真也

第三部

記念懇親パーティー

以下 詳細は下記にお問合わせ下さい。

社団法人 商業施設技術団体連合会

〒102 東京都千代田区六番町9-3〈九番館〉

TEL (03)261-8151・5142

法律相談に宇都宮氏

このたび、J I D会員の法律相談に乗って下さる宇都宮健児弁護士をご紹介します。豊富な経験と専門知識で、会員の法律上の問題解決に手助け願えます。

J I D会員であることを告げて下記へ直接連絡をとって下さい。

弁護士 佐藤健児

佐藤法律事務所 電話03-253-4221~2

〒101 東京都千代田区神田佐久間町1-14

第二東ビル701号室

委員会一覧

● 通常委員会

委員会	委員長	委員
総務	中村圭介	川野明 増本敏治 山田晃 山下礼子 高田紀久枝 杉富士雄 鈴木栄二 山品元 前原誠 下島資子 古谷悟嗣 佐藤勝 藤川宏允(関西)
広報	長岡貞夫	長堀映司 山岸征史 福田友美 嶋佐知子 吉良ヒロノブ 飯田公久 服部緑
渉外	川上玲子	坂田種男 大野美代子 渥美孝道 木村戦太郎 石黒正範 日方和城 中田重克
教育 (新設)	島崎信	加藤帛子 真水公雍 (追加予定)
事業 (新設)	森谷延周	調整中
業務 (新設)	諸富幸成	稲垣紘一郎 今崎務 小倉正史 佐藤弘光 垂見健三 矢作彩子

● 特別委員会

委員会	委員長	委員
出版	光藤俊夫	尾上孝一 永原 浄 わたなべひろと 中田重克
報酬基準	中村圭介	水野信策 村井輝男 関口正巳 尾上孝一 山岸征史
新マップ	長堀映司	飯田公久 岩倉栄利 黒田秀雄 吉良ヒロノブ 嶋佐知子 徳永英子 日方和城 西沢圭三 福田友美 長岡貞夫 森谷延周
ワーキング・グループ	木村戦太郎	渥美孝道 大野美代子 市村幸子 阪井良種 白石勝彦 田辺麗子 中田重克 永原 浄 日方和城 藤村盛造 山田伊三郎

● 事業支部関係

支 部	支 部 長	委 員
関 東	尾 上 孝 一	山 本 棟 子 山 本 其 観 代 わたなべひろこ 長谷川 隆 之 鐘ヶ江 茂 則 金 子 浩 子 徳 永 英 子
関 西	川 崎 浩	・総 務（金子誠之助、樋口 治、藤川宏允） ・事 業（富田卓司、岡村 実、近沢晴雄、南原七郎） ・出版特別（富田卓司、石村徹之） ・広 報（中村隆一、秋田嘉正、安永一典）
九 州	溝 口 新	・総 務（筑島良介・山永耕平） ・広 報（中川千年・溝口 新）
中 部	宇 賀 敏 夫	・総 務（委員長 林 寅正、副委員長 本多正之、委員 八代美智子、 小柳朝一、林 英光、長坂 信、中里信正、山腰 実） ・広 報（委員長 堀内啓二、副委員長 品川 誠、委員 黒野敬三、加藤博之、 葭原 基） ・事 業（委員長 池田高明、副委員長 後藤嘉夫、委員 安藤 清、田村 悠、 藤井 豊） ・北陸地区（委員長 小松曉一、委員 梶谷賢一、西川昭紀、石田忠昭、坂田守正、 松田康夫） ・特 別（委員 岡嶋敏弘、瀬十記夫、玉置勇一、若園 晃、横田稔秋）

（注）選考委員会は省略しました。（表中 順不同）

関連団体のうごき

- ・ （財）日本クラフトデザイン協会（JCDA）の新理事長は平松保城氏が選ばれた。高木晃前理事長のあとを受けて、クラフト運動の地方進出も益々その実のあがることが期待される。）
- ・ （財）日本ディスプレイ業団体連合会（NDF）の新会長は水上邦彦氏が選ばれた。創立13年目を迎え、全国組織の拡充を目指している。）
- ・ （財）日本インダストリアルデザイナー協会（JIDA）の新理事長は寿美田与一氏が選ばれた。JIDA創立30周年記念事業へのアクションが期待される。）
- ・ （財）日本室内装備設計技術協会では会長に石川四郎氏を選任した。石川さんはJIDの名誉会員でもあり、新会

長の活躍は当協会としても期待したいところです。）

- ・ （財）大阪デザインセンター（11年来常務理事をされた松田正三氏が退任し、後任として横山外熙氏が就任した。）
- ・ インテリア産業協議会では5月12日、農林年金会館で定時総会を開いた。本年度から、年会費現行5万円を7万2千円への値上げが決定した。
- ・ 国際インダストリアルデザイン団体協議会（6月22日のICSID NIGHT'81はおかげさまでもちまして盛会のうちに有意義な宵のひと時をもつことができました。20ヶ国をこえる国々の方々と、国内からも各界の多数のご臨席を賜りました。）

会員の消息

- 桜井定雄（今春、日本室内設備工業株式会社を退職いたしました。永年にわたり公私共深いご厚情をいただきました。また、自宅も下記へ移転いたしましたので、お立寄り下さい。

〒157 東京都世田ヶ谷区祖師谷 4-28-12-3

電話 (473)4886

- 秋田純孝（5月23日、関東の狩野雄一、榎田均、山品元、東陶機器太田さんほか、事務局の池田則子さんのガイド役でポートピア見学をいたしました。ビール——パビリオン——ビールでした。それにしても通り魔と中年の自殺が増えています。会員諸兄もご自愛を。）
- 大山繁三郎（皆様ますますお元気でご活躍のこととお慶び申し上げます。本日（5月29日）名誉会員の御通知と感謝状が手元に届き恐縮しております。協会の益々のご発展をお祈りいたします。）
- 奥宮 守（このたび新入会員となりました奥宮です。何時の間にか馬齢を重ね恥かしく思っていましたところ、改めて会員の一人に加えて頂き心から嬉しく存じます。何かしら今頃になって一人前の資格をもらったようで面映ゆい気持ちも致して居りますが、今後ともよろしくお願い申し上げます。）
- 内村 麗（健康にムリのない程度に仕事をして居ります。昨年来より病院・医院の新築・改築を工務店とタイアップして進めました。）
- 中村 真（体調の具合いまだ本来ならず、会合にも欠席させていただいております。）
- 水野信策（5月20日から初夏の北京へ出張しました。）
- 永原 浄（大阪泉佐野市の体育総合公園内にシンボルトワーを制作しました。市民に喜ばれているとの役所からの報告がありました。）
- 古藤司郎（多忙です。会合にも出席できず失礼しています。J I Dの益々の発展を心から祈っております。）
- 株式会社リバコ（昭和40年来りバコブランドにて販売をいたして参りましたが、いよいよ6月1日より新社名になりました。プロフェッショナルインテリアリバコとして会員の皆様をはじめ関係各位にお認めいただけますようがんばるつもりです。取締役社長 小川成信（旧社

名 小川商店）尙、事業所、電話番号とも従来と同じ。）

- 林 寅正（本年4月より（株）中部デザイン研究所代表取締役を辞任し、後任を舟橋辰朗氏にバトンタッチしました。引続きのご支援をお願いいたします。）
- 川崎 浩（去る5月6日、御母堂が永眠された。享年85才。ご冥福をお祈りいたします。（文責：事務局）
- 新庄 晃（5月22日の大阪での総会。教授会のため欠席しました。諸兄のご健闘をお祈りいたします。）
- 三宅 正郎（ごぶさたしております。諸兄にもお目にかかりたいと思います。）
- 藤川宏允（去る5月、二科展入選・落選作品展と題し油絵展を開きました。会場はギャラリー^{ベ?}白で、陶の花器も同時に展示いたしました。挿花は布花の井村繁子先生にお願いしました。お蔭様にて好評でした。）
- 嶋佐知子（今夏はアメリカのインテリアデザイナーだけにしか見せてくれないマーケットを1ヶ月ほど調査に行く予定です。）
- 穴山邦夫（気候不順の折柄、諸兄の御健康を心から祈念いたします。）
- 藤村盛造（通産省内デザイン化推進プロジェクトの方は段々多忙になって来ました。）
- 大内一雄（2月1日から入院中のため、諸兄にごぶさたしております。もうじき社会復帰する予定です。）
- 渡部安吉（協会のますますのご発展を祈りあげます。）
- 岩瀬要三（7月下旬より約2ヶ月北米に出かけ、しばらくニューヨークに滞在しますのでよろしくお願いいたします。）
- 中村圭介（6月29日～7月11日、東京芸術大学芸術資料館で“新収品展”——梶田恵家具木工芸設計図——が開かれ、昨年の家具の博物館以来の感慨を新たにしました。）
- 森下敏郎（都合により、去る2月末、小田急ハルクを退社し、引続き日本デザイン専門学校インテリアデザイン科に勤務しております。）
- 井関黎一（仕事に追われ何もお手伝い出来ず申し訳なく思っております。当社も26名の新入社員が増え、138名になりました。頑張っています。）
- 清水 武（脚関節痛のため本意ならず、祝賀会を欠席いたしました。本年より名誉会員となりました。）

- 稲垣紘一郎（今回の総会，関西支部大阪にて開催されたこと，大変よいと思います。結果も成功とかご同慶のいたりです。）
- 第13回通常総会に寄せて，以下の方々からも返信ハガキ通信欄で一筆啓上いただきました。ありがとうございました

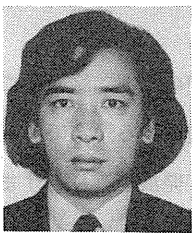
ました。）

- 龍ノ口征雄・岡嶋敏弘・山本峯秀・小川欣一・尾上孝一・飾磨淳吉・村形省・山田晁・寺内万佐由・上辻謹一・増本敏治・坂根健一郎・大竹正道・佐藤守男・諸富幸成・赤木満・古谷悟嗣（以上順不同，敬称略）

新入会員の紹介

● 新入会員

正 会 員

し みず まさ よし 清 水 正 義 （会員番号 491） 	<勤務先・事務所> <自 宅>	清水正義デザイン事務所 静岡県焼津市坂本513 〒425 （05462）7-0054 上に同じ
し お た か ず お 塩 田 一 夫 （会員番号 492） 	<勤務先・事務所> <自 宅>	(株)東京家具センター アンビエンテ青山 東京都港区南青山3-1-30 住友生命青山ビル1F 〒107 （03）405-6720 東京都目黒区目黒本町5-25-7 〒152 （03）793-2329
お く み や ま も る 奥 宮 守 （会員番号 493） 	<勤務先・事務所> <自 宅>	(株)カネボウファッション研究所 東京営業所 東京都千代田区紀尾井町3-27 剛堂会館ビル3F 〒102 （03）262-4176 京都府京都市左京区吉田神楽岡町3 〒606 （075）751-1568

賛 助 会 員

株 式 会 社 内 田 洋 行	<住 所> <担 当 者>	神奈川県鎌倉市上町屋809 〒247 （0467）44-6171 研究所次長 近 藤 明 夫 内線26
--------------------	----------------------	---

● 会員の移動

正 会 員

会 員 名	移 動 事 項	新
桜 井 定 雄 (名 誉) P 21	自 宅	〒157 東京都世田谷区祖師谷4-28-12-3 電話 03-483-4886
鬼 田 勲 (関 西) 新	自 宅	〒567 大阪府茨木市山手台2-5-8-505 電話 0726-49-5230
森 下 敏 郎 (関 東) P 99	勤 務 先	日本デザイン専門学校インテリアデザイン科 〒151 渋谷区千駄ヶ谷5-7-3 電話 03-356-1501
加 藤 邦 夫 (関 東) P 46	勤 務 先 自 宅	中央設備エンジニアリング(株) 〒103 東京都中央区日本橋本町2-4 日本橋ホンチョウビル6F 電話 03-661-8551~5 電話 0422-51-1176
山 田 善 唯 (関 西) 新	勤 務 先	日立グループ新明和工業(株) 本社技術部技師 〒560 大阪府豊中市箕輪3-7-1 電話 06-841-6855
香 月 寿 一 (九 州) P 151	勤 務 先	岩田屋インテリア株式会社 〒810 福岡市中央区天神3-15-24 中村ビル1F 電話 092-741-5703
安 永 一 典 (関 西) P 141	勤 務 先	(株)大丸装工事業部 神戸事務所 〒650 神戸市中央区明石町40 三菱信託銀行ビル6F 電話 078-331-9687
北 原 進 (関 東) P 51	自 宅	〒108 東京都港区白金台5-6-6 白金台ホームズ602 電話 03-440-1275
安 藤 孚 (関 東) P 29	勤 務 先	(株)岡村製作所開発部 〒100 東京都千代田区永田町2-14-2 山王グランドビル8階 電話 03-581-9556 (代)
川 村 真 佐 士 (関 東) P 50	自 宅	〒143 東京都大田区山王3丁目22-9 電話 03-776-2410

準 会 員

田 阪 春 夫 (関 東) P178	勤 務 先	川田木工(株) 〒071-15 北海道上川郡東神楽町東神楽250 工業団地 電話 0166-83-3421 (代)
古 谷 悟 嗣 (関 東) P179	事 務 所	〒186 東京都国立市中1-20-6 電話 0425-76-8515
瀬 尾 清 (関 東) P177	事 務 所	キョ・デザイン研究室 〒167 東京都杉並区本天沼1-1-12 電話 03-338-1417 分 室(電話番号のみ変更) 電話 03-815-1253
根 本 恵 司 (関 東) P179	事 務 所	タッチ・ダウン 〒151 東京都渋谷区千駄ヶ谷4-13-6 カサデツナ3F 電話 03-470-1567
永 井 敬 二 (九 州) P188	勤 務 先	岩田屋インテリア株式会社 〒810 福岡市中央区天神3-15-24 中村ビル1F 電話 092-741-5703
佐 藤 勝 (関 東) 新	勤 務 先	日本電建(株) 横浜支店建築課 〒231 神奈川県横浜市中区曙町1丁目9番地 電話 045-261-5421 (代)

賛 助 会 員

(株) ニ チ ベ イ P210	担 当 者	総務部企画課 次長 金 坂 嗣 堯
(株) コ ト ブ キ P200	担 当 者	開発課 鈴 木 文 彦 〒180 武蔵野工場・武蔵野市境5-14-16 電話 0422-52-2111
中 央 設 備 エンジニアリング(株) P207	東 京 支 店 住 所	〒103 東京都中央区日本橋本町2-4 日本橋ホンチョウビル6F 電話 03-661-8551~5
株式会社小川商店 P197	社 名	株式会社 リ バ コ
東陶機器株式会社 P209	担 当 者	工業デザイン課 香 野 昭 電話 03-595-9753

(株)岡村製作所 P197	担 当 者	開発部電話番号 03-581-9556 (代)
------------------	-------	----------------------------

会 議

〔 4 月 〕		〔 6 月 〕	
6 日	広報委員会	11 日	ワーキンググループ
13 日	出版特別委員会	12 日	広報委員会
	教育委員会	16 日	渉外委員会
16 日	関東事業支部委員会	18 日	報酬基準特別委員会
17 日	ワーキンググループ		業務委員会
24 日	出版特別委員会	22 日	ワーキンググループ
28 日	ワーキンググループ		教育委員会
	総務委員会	26 日	ワーキンググループ
〔 5 月 〕		27 日	広報委員会
16 日	九州事業支部総会	29 日	教育委員会
19 日	広報委員会	〔 7 月 〕	
20 日	出版特別委員会	3 日	選考委員会
22 日	第13回通常総会		総務委員会
25 日	教育委員会	7 日	ワーキンググループ
28 日	ワーキンググループ	13 日	業務委員会
30 日	広報委員会	14 日	ワーキンググループ
		〔 予 定 〕	
		24 日	56・第2回理事会

寄贈図書 (・印寄贈者)

・日本建築家協会関西支部	1980 建築家作品年鑑 WORKS OF ARCHITECTS	5. 18	
・Academic Bookstore (FINLAND)	form-function	5. 18	
・朝 倉 書 店	インテリアデザイン辞典	6. 1	清 家 清 (監修)
・武蔵野美術大学	研 究 紀 要	6. 22	
・財団法人日本産業デザイン振興会	地方産業デザイン開発推進事業報告書	7. 2	
(株)日本インテリアデザイナー協会	日本のインテリアデザイン ― 光とのかかわり	7. 3	・六 耀 社

事務局短信

- ① 総会も祝賀会も成功裡に終り、一息ついているところです。天候不順で、不快指数も記録的です。会員諸兄もご自愛を。
- ② 二年来の課題であった、キャノンコピーが新型に替りました。次号でも引き続きご紹介して行く予定ですが、ご利用下さい。A3, A4, B5, B4とハガキがコピーできます。両面もOKです。会員利用は紙サイズに関係なく1枚15円となりました。A5, B5の原紙は2枚ずつとって下さい。経済的です。同時複写99枚まで。夜間の場合は、取扱注意書きを守って下さい。
- ③ ヘルシンキ会議が近づきました。出席を予定されている会員で、早くも出掛けの方を聞く昨今です。協会からの代表団は三輪正弘・川上玲子・渥美孝道・島崎信の4会員です。
- ④ 大阪では関西支部の方々の暖かなご協力がほんとうに嬉しく感じられました。翌日の研修会もそれぞれによい思い出になりました。
- ⑤ 報酬基準書一式(プロダクト関係)がお手元に届いたと思います。追加申込はご遠慮なく。準会員の方はお申込者のみに頒布しています。
- ⑥ 『日本のインテリアデザイン』本部事務局とも常備します。但し、郵送希望の方の分は㈱六耀社から発送となります。本部での手渡し分は1冊12,800円です。ご利用下さい。
- ⑦ 近日中に、『インテリアマップTOKYO'81~'82』の増刷分が入荷予定です。こちらは1冊1,200円(送料200円)です。
- ⑧ 新年度会費未納の方、至急納入をお願いします。理事会議事録にもあるように、今回財政上の理由から、協会は100万円の借入をしました。正副理事長には個人的な保証をしていただいています。未納の方、今すぐアクションをとって下さい。
- ⑨ 子供達にはもう夏休みです。よきパパ・ママになれるチャンスです。
- ⑩ 事務局の夏休みは以下の通りです。ご不便をおかけしますが、ご協力のほどを。

8月10日(月)
13日(木)
14日(金)

(山品 元)

JID NEWS 1981/6・7

毎月1回発行 頒価250円

昭和56年7月25日発行

発行・社団法人日本インテリアデザイナー協会

(日本インテリアデザイナー協会月報1981年通巻第108号)

編集・社団法人日本インテリアデザイナー協会総務委員会

中村圭介・川野明・増本敏治・山田晃・山下礼子・

高田紀久枝・杉富士雄・鈴木栄二・山品元・前原誠・

下島資子・佐藤勝・古谷悟嗣・藤川宏允(関西)

印刷所・広洋印刷株式会社

振替・東京8-76389